

敬子 令和3年2月度特別作品

夕桜

敬子

私は、定年退職してから、毎朝家の近くの太田川沿いを散歩している。四季折々の自然の移ろいや、鶯や鶺鴒を題材として俳句を詠んでいる。「兩岸の若葉映りて朝の川」雉に初報句、林徹先生にももらった特選句。「鶉の子被爆の椿を果立ちたり」これで俳句に取り付かれた。これからも、健康のために散歩を続け、自然の中の小さな発見を、折にふれ、俳句として書き留めていきたいと思う。

川風にゆさゆさ揺れて夕桜

舟寄する雁木に桜吹雪かな

花樗煙雨のなかに咲き嬉む

白鷺の三々五々に中洲癸つ

青鷺の冠羽吹かるる水辺かな

潮入を越えて聞こゆる蟬時雨

水脈を引き漁船の出づる冬の朝

さざ波に乗りて漂ふ百合鷗

それぞれに飛沫を上げて鴨の群

川岸に並ぶ小舟や冬夕焼

《作品鑑賞》

高尾ひとみ

広島に流れる多くの川、その兩岸には桜や楠など美しい木々が育っています。そこに来る水鳥や舟の出入り、そうした景色の中で生まれた佳句が並びました。

川風にゆさゆさ揺れて夕桜

飾らない言葉が夕べの桜の大きさを思わせてくれます。

舟寄する雁木に桜吹雪かな

川に張り出すように伸びた桜の枝からでしょうか。低くからの作者の視点が新鮮です。

青鷺の冠羽吹かるる水辺かな

静かに立ちつくす鷺の姿が見えるようです。

俳句をこの上なく愛する作者が、鳥や木と一体に融け合って、広島の四季を丁寧に写し取っています。一緒に川辺を歩いているような気持がしてきました。

美耶 令和3年2月度特別作品

元宇品公園 冬の一日 美耶

広島市の南端にある小さな島には原生林があり、そこには、四季を通して鳥が訪れる自然豊かな公園があります。しばらく上ると白亜の灯台が見え、側には樹齢三百年の楠の大本が聳え立っています。遊歩道を下れば、波静かな砂浜が広がり、海岸はサイクリング、釣りなどを楽しめるスポットです。

冬鳥の羽音聞こゆる遊歩道

冬の鳥木立の枝を渡りけり

鳥の来てまた鳥の来て寒椿

落葉道下れば海の広がりぬ

自転車の二台置かれて冬の浜

冬の海船と並びて鷗飛ぶ

寒鴉しばらく浜を歩きをり

冬の波寄せて時をり靴の濡れ

夕映えの冬の木立を歩きけり

山裾に広がる海に冬日入る

《作品鑑賞》

高尾ひとみ

鳥や木、海、山、自然の中を歩く楽しさを感じさせてくれる佳句が並びました。冬の海は厳しさを思いますが、この作品には、生命力や明るさ、おらかなさを感じます。元宇品公園を歩いてみたくなりました。

鳥の来てまた鳥の来て寒椿

冬山のそこだけ赤い寒椿、つきつきとやってくる小鳥の声も聞こえてくるようです。リフレインが喜びを伝えてくれます。

落葉道下れば海の広がりぬ

山裾に広がる海に冬日入る

落葉の道を下ると海、その大きな海に冬の日が沈む。ゆったりと自然に浸る豊かな時間を味わうことのできる作品だと思います。海を詠みこむことで、作品に大きさが出ています。